

## 事業所職員向け 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、問題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6		1人1人のスケジュールを作成しており、それぞれが各スペースで重複しないように工夫している。
	②	職員の配置数は適切であるか	6		法律で定められた定数は配置しており、またそれ以外にも、理学療法士や作業療法士、心理士や保育士、社会福祉士等の有資格者を配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	6		手すり等はないが、段差は床に敷いているマットのみ。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	6		定期的な全員参加のミーティングの開催や、業務改善の為にマニュアル作成に取り組んでいる。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する事により、アンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6		保護者向けのアンケートも実施しているが、送迎や面談の際に子供に関する事やそれ以外の事(事業所のハード面も含む)に関しても、聞き取りを行い改善が必要な箇所や問題に対しては、早目の対処を行っている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6		アンケート調査を毎年行い、結果はホームページに載せ公表していく。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		6	第三者評価は行っていない。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6		最低でも月に1回は、研修を行うようにしている。外部で研修がある時は、参加出来る環境を整えたり、事業所内研修も行っている。研修内容も事業所の特性を踏まえ、自閉症の特性などの理解や子供達との関わりに生かせる内容に工夫している。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子供と保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	6		アセスメントは、本人・保護者様からの聞き取りや検査結果等の資料はもちろん、お子様の状況を十分に観察した上で行っている。計画作成後にアセスメント内容に変更があり、支援の方向性を変更する必要がある際には、早期に保護者様への説明を行うと共に、計画や支援内容の変更の提案を行っている。
	⑩	子供の適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6		標準化されたアセスメントツールを基本とした独自のアセスメント様式を作成して使用している。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	6		社内ミーティングに於いて、活動プログラムの変更や追加の必要性等について、随時話している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	6		毎回同じ内容にならないように、この内容で続けていくか等を、その子に応じてプログラムした上で支援を行っている。

適切な支援の提供	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて。課題を決め細やかに設定して支援しているか	6	その子の現状の課題を考慮し、必要なものを判断している。週に2~3回来られている方に関しては、曜日によって集団の日と個別の日に分けている場合も多い。
	⑭	子供の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	6	その子の現状の課題を考慮し、必要なものを判断している。週に2~3回来られている方に関しては、曜日によって集団の日と個別の日に分けている場合も多い。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6	毎朝、ミーティングを行っており、予定表を見ながら担当者や支援内容について確認している。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6	最終利用者が帰られた後に、夕方のミーティングを行い、その日の反省点や変更が必要な場合は次回への課題等話し合っており、問題をそのままにせず職員間で周知できるようにしている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	その日利用された方の支援内容・様子・評価等記録しており、次回の支援に生かせるようにしている。
	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6	利用毎の記録を元に、社内ミーティングで、支援の方向性を変更した方が良いと思われる利用者に関しては、チームで検討して必要に応じて見直しを行っている。
	⑲	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	6	
関係機関や保護	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	6	児童発達管理責任者及び、専門性のある心理担当職員が参加している
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子供の下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	6	学校への送迎がないため、直接学校と連絡を取るとは少ない。行事予定や年間計画は保護者から聞き取ることが多い。支援上、必要であれば学校の担任の先生等に連絡をとることもある。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子供の主治医と連絡体制を整えているか		
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に務めているか	6	新1年生になる場合等は、情報共有のために連携を図ったり、相互理解に努めているが、事業所の特性上利用開始が小学校中学年・高学年等からの利用が多いため、連携を図る事は少ない。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	6	その子の進路に応じて、必要であれば積極的に支援していく予定。開所後2年目なので、卒業生も少なく、現時点では、事例はあまりない。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6	必要に応じて専門機関と連携を図っている。専門職に助言を仰ぎたい時は、相談する事もある。

者との連携	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や障害のない子供と活動する機会があるか	6	コロナ感染予防の観点より、様子を見ている。
	②⑦	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	6	地域の子ども部会には所属しており、研修には出来るだけ参加している。また、昨年度代表が「自閉症についての講義」を依頼された。地域全体の発達障害に関しての理解の促進に努めている。
	②⑧	日頃から子供の状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6	連絡帳とは別に、事業所のスマートフォンから全利用者にラインを登録して頂いており、そちらで情報交換も行っている。送迎の際にも、その子の様子を伝えているが、本人に聞かせたくない事や、じっくりと考えていきたい事、記録に残しておいた方がよい事等は書面やラインを活用している。
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	6	心理士との面談の際には、必要に応じてその子にあった支援方法のアドバイス等も行うが、心理士のノウハウを生かして子どもの様子を伝え、どのようにしていきたいか、どのようにしていけば上手く行くかを自分で考えて頂き、日々の対応や声かけ等、保護者が能動的に関わっていただけるよう支援を行っている。
保護者への説明責任等	③⑩	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	契約締結の前に、運営規定・重要事項説明書について説明する時間を十分に取り、分からない事等ないか確認を行っている。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6	出来る限り定期的に家庭訪問し相談に乗れるよう提案している。受け入れ可能なお宅には毎月訪問出来ている。難しい場合は、送迎の際やラインにて困りごと等ないか声かけ確認を行っている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	6	保護者同士の交流の場を作るために、座談会を行った。感染症の心配等なくなったら、保護者のグループセッション等を通してコミュニケーションを図って頂きたいと考えている。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子供や保護者等に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	上記のように、相談体制は整えている。相談があった際には、出来るだけ早く（可能ならその日の夕方等）訪問やその他の方法で詳しく話を聞いて対策を検討し、早期に実施している。子供達にも、常に相談（SOSやHELP）が出来るように、支援の中に組み込んで教えている。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子供や保護者に対して発信しているか	6	会報は作成していないが、伝達事項は文書やラインでお伝えしている。活動の様子等は個別に写真を撮ってラインで送信する事もある。
③⑮	個人情報に十分注意しているか	6	個人情報が記載された書類の管理等は決められた場所から動かさない等の徹底した対策を行っている。また、ご利用者様同士の連絡帳や私物の取り扱いを注意したり、個人情報が含まれた内容を話す時は、周囲に人がいないか等配慮した上で行っている。	

	③⑥	障害のある子供や保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6	その子や保護者に応じて、最も適切な意思疎通の方法を用いている。子供に対しては視覚支援や言葉の使い方等に配慮する事が多いが、保護者に対しては、場面に応じて、口頭や電話、書面でのやり取り等、その方にあった方法で行うように努めている。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	6	現在、住民の方が参加できるような行事時代を開催出来ていない状況である。今後、感染症の心配がなくなってきたら、そのような行事も検討していきたい。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防災マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか	6	各防災マニュアルは策定しており、保護者にはマニュアルの開示は行っていないが、スタッフ間では周知確認できている。避難訓練は、火災や地震を想定し、半年に1回程度の間隔で実施していくよう計画している。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	訓練は行っているが、頻繁には行えていない。職員間では緊急時の対応を話してはいるが、子供達も落ち着いて行動出来るように、災害発生の危険性について学ぶと共に、落ち着いて行動出来る程度に習得する為の訓練を定期的に行っていく必要があると思われる。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6	虐待防止の為の研修会は実施しており、把握・認識できている。また、常に職員間でお互いの支援を確認し、虐待につながるような行動が起こっていないか気がけている。
	④⑪	どのような場合にもやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子供や保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	6	子供達の安全を守る為に、身体拘束と呼ばれる行為を行う事があるかもしれないが、極力しなくても良いような工夫を行うと共に、もし行った際には必ず報告をする旨を説明し、同意を頂いた上で支援を行っている。
	④⑫	食物アレルギーのある子供について、医師の指示書に基づく対応がされているか	6	食物アレルギーがあるお子さんについては、主治医の意見や保護者の意見等を確認し、アレルギーが発生しないような状況作りと、発生してしまった時の対応について職員間で周知していく。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して、事業所内で共有しているか	6	ヒヤリハット事例集は作成しているが、実際には口頭で話して、記載しない事も多いので、今後の事故発生を予防していく為にも、気付いた事を記載していくよう気がけていく必要があると思われる。